

深友会のパワーアップに向けて

深友会相談役・内海貴代久
(前深友会々長)

深沢中学校開校五十周年の記念事業を滞りなく終えて一年が経過しました。母校に新しい校旗を贈呈でき、記念誌も、卒業生名簿も立派に出来まし

た。この事業活動を振り返って見て、最も心に残るものは、大勢の方々から賛同をいただいたこと、そしてすべての実行委員が団結して事業の最後まで責任を果たしてくれたことです。あのイベント会場で出会ったどの顔も、みんな懐かしさが込み上げ感動している様

子でした。実行委員一人一人の顔には満足感があふれていました。

開校五十周年記念という大事業は為し遂げたものの、深友会の現実的な課題は多く、新たな運営体制を構築することが急務となりました。そのために今年度は、別表のように、総勢二十名を超える役員体制を組み、活動を充実させることを確認し合いました。

この体制作りを可能にさせた源は、五十周年を契機に卒業生同志の絆が出来たことに他なりません。若い人たちも多く、いままでは違うパワーを感じます。「深友会の活路はここにあり」です。このパワーを持続させ、一致協力して会の運営に当たっていかうと考えています。

私が深友会々長をお受けしてから八年、それまでは大きな活動もできずにいましたが、今回の記念事業では大変に貴重な体験をさせていただきました、また大勢の仲間と出会うことができて非常に感動いたしました。そしてこの時期こそ、若い方々にバトンタッチする好機だと考え、嶋村勝美氏に会長をお願いすることになりました。

氏が役を引き受ける際の要望の一つに「皆で相談しやすい役員会作り」がありました。それぞれ適役の人たちが役員になることを快諾してくれ、自信を持って引き継ぐことができた。

今後は会の相談役として残れということなので、微力ながらお役に立つよ

平成9年度卒業生の進路状況

●公立高校

深沢23名 大船19名 湘南16名 七里ガ浜15名 鎌倉12名 大清水10名 藤沢9名 藤沢北5名 長後4名 湘南台4名 平塚工業4名 横須賀工業3名 平塚西工業技術3名 逗葉2名 衛生短大二俣川2名 藤沢西・汲沢・大船工技・神奈川工業各1名

●専修・専門学校

厚木高等専修4名 大和商業高等専修・岩谷学園・町田家政福祉各1名

●私立高校

湘南工科大附属21名 山手学院17名 鶴沼女子17名 横須賀学院14名 藤沢商業14名 平和学園12名 三浦10名 北鎌倉女子10名 日大藤沢9名 鎌倉学園8名 藤嶺藤沢8名 平塚学園5名 鎌倉女子大附属5名 武相4名 聖和学園4名 横浜学園4名 湘南女子4名 横浜商工3名 相洋3名 横浜隼人2名 旭丘2名 神奈川学園2名 桐蔭学園・横浜・横浜商大・秀英・法政二・東京実業・富士見ヶ丘・横浜学院・緑が丘・横浜英和・鶴見女子・明倫・NHK学園各1名 (併願合格者を含む数字です)

深友会からのお知らせとお願い

「深友会だより」第一号、いかがでしたか。本年より年一回、母校・深沢中学校の現状や、卒業生の動向、また懐かしい話などを盛り込んで、この小冊子をお送りしたいと思います。

しかし会の定期的な収入は、卒業時に払い込んで頂く少額の入会金しかない現状では、いづれ予算不足に陥ることは目に見えています。

そこで皆様に賛助金という形でご協力をいただきたく、趣旨にご賛同いただける方は、同封の用紙でお払い込み下さるようお願い申し上げます。

なお、住所等変更がありましたら、深沢中学校の深友会事務局までお知らせ下さい。また同期会やクラス会など開かれた時は、ご様子を記した原稿や写真、同級生の名簿などお送り下さい。

深友会だより 発行に よせて

深友会 (深沢中学校同窓会) 会長・嶋村勝美

この度、深沢中学校同窓会の会報「深友会だより」を深友会役員の方々、並びに深沢中学校校長北村智生先生をはじめ諸先生方のご協力により発行できましたことは望外の喜びであります。

深沢中学校同窓会 (略称・深友会) の創立は昭和四十年十二月十二日、長い歴史を有していますが、多くの卒業生にとって存在感は薄かったように思います。私自身、昭和六十二年五月頃に鈴木利夫校長先生より役員の要請を受けるまで、この会の存在を知りませんでした。九月になって、内海貴代久前会長の下、副会長をお引き受けしましたが、その当時は役員も数名で、会務としては深友会の入会式と卒業式に出席する程度で会そのものは沈滞していました。とりあえず、歴史のある深友会の火を消さずに継続することを当面の使命とし、やがて多くの同窓生と共に会の存在を知らしめる機会を作り、会の発展を図るために模索して

いました。

昭和六十三年二月、深沢中学校創立四十周年記念式典があり、その年の四月、田代弘隆第十三代校長先生が着任。PTAのOBや現職の方々との懇親会に同席させていただき、これが契機となつてPTA役員との交流が始まりました。

平成四年四月、曾根原敏治第十四代校長先生が着任し、石井守久教頭先生、同窓会担当の西山晶子先生並びにPTA役員の方々のお力添えやご支援をいただき、深沢中学校開校五十周年の記念事業を行うことを目標に定めました。

やがて賛同者の輪が広がり、後任の安藤鉦一教頭先生、その後の上原稔教頭先生や同窓会担当の豊永良一先生等のご協力をいただいて、平成六年六月五日第一回目の五十周年記念準備委員会を開催。それから三年の歳月をかけて準備を進め、平成九年五月二十五日、念願の開校五十周年記念事業と式典を挙行することができました。

深沢中学校
同窓会報

深友会だより

創刊号

鎌倉市立
深沢中学校
深友会事務局
〒247-0063
鎌倉市梶原1-14-1
☎0467-44-1222

この一大イベントを実現するに当たり、たくさんの方々よりご協賛とご協力をいただき心よりお礼申し上げます。そして、ここに深友会としての組織も固まつてまいりましたので、今後更にこの会が会員の方々にとって情報交換や親睦、また、母校の支援等、意義のある会となるよう事業を展開してまいりたいと考えています。

その事業の一環として「深友会だより」を年一回発行し、会員の方々にお届けしてまいります。ただし、所在等が明確でない方も多くいらっしゃると思いますので、お手元に届かない方で「深友会だより」を希望される方は深沢中学校までご連絡下さい。



50周年祝賀パーティー会場にて

深友会新役員が決定

平成十年五月十七日に開催された深友会総会において、次の通り新役員が決定されました。

(氏名下の数字は卒業回数)

顧問	北村智生(校長)
相談役	萩原秀雄(教頭)
会長	内海貴代久(6)
副会長	嶋村勝美(8)
会計	渡辺重信(8)
常任幹事	島田万千雄(13)
幹事	小日山明(教諭)
	内田(和田)澄子(14)
	矢沢基一(14)
	市村誠治(15)
	諸石昭好(16)
	和田敏昭(9)
	波形清信(11)
	秋元邦夫(14)
	小川節夫(15)
	安田敏雄(17)
	矢沢照(17)
	宮崎(郷原)早苗(17)
	村谷明(18)
	古屋秀幸(18)
	宇田浩二(20)
	宇田(穂積)美也子(20)
	古屋善啓(22)
	岩壁孝次(22)
	金子良子(22)
	坪井孝子(22)
	金子(森)鈴江(26)
	田中浩志(31)
	田辺順式(9)
会計監査	山崎和子(9)



ナイス・バッティング

平成十年七月四日（土）、深沢中学校校庭において、中学校の教職員と深友会有志の懇親会が開かれ、ソフトボール大会とバーベキュー・パーティーが催されました。

梅雨の晴れ間の強い日差しの中で午後三時から行われたソフトボールでは、平均年令で教職員側を上回る深友会が健闘。一時は七点差をつけたものの、終盤守備の乱れもあって逆転、しかし最後は再び逆転し、深友会のサヨナラ勝ち。

その後、夕刻からバーベキュー・パーティーで盛り上がり、大いに親睦を

教職員と深友会の懇親会開かる

懇親会開かる

思い出の旗、そして未来への旗

深沢中学校校長 北村智生

深友会機関紙の第一号発行おめでとうございます。いよいよ深友会も翼を大きく広げ、確実にはばたき始めたことを嬉しく思います。

昨年の五十周年記念を機に、多くの人々に深沢中学校に「深友会有り」とその存在感を示されました。本校の教職員、生徒共々深沢中学校、深友会の一員であることを誇りにしています。私自身も深沢中学校の卒業生であったかのような錯覚さえ感じています。

今、校長室の壁に、昭和三十二年一月、石井一三様から寄贈して頂いた校旗が、深沢中学の歴史を静かに語りながら燦然と光り輝いて掲げられています。一つの大きな仕事をなし終え、満足感に浸っているようにも見受けられます。

また昨年度、五十周年記念式典で深友会より贈られ披露された新しい校旗は、今後の深沢中学校の常葉の栄えを期するかの如くにも思われます。この新校旗を手にとると、ズシリとした重量感があり、深友会の皆様の深沢中に対する期待を両腕に感じざるをえません。

「健康と知性」「真理と平和」をあらわす四枚の楳の葉、この四枚の葉は



50周年記念式典での校旗贈呈式

一つの線でしっかりと結ばれ、その結束は「師と友と共に道険しくも雄々しく往かん」そのものです。この新しい校旗のもと再び新しい深沢中学校の歴史を刻みたい気持ちが高ぶるばかりです。

私個人としては、もう一つの旗に印象深いものがあります。その旗は、二十数年ぶりに昨年度の体育祭に、忽然と生徒たちの目の前に姿を現しました。深沢中「体育祭優勝旗」です。寄贈して頂いた年月日は不明ですが、金子亀吉様より贈られた爽やかなブルー色の旗で、昨年度優勝カラーチームの団長にしっかりと手渡されました。

歴史を刻んだ旗、これから刻む旗、思い出の旗、いろいろな思いを秘めた

深めました。

今後深友会ではこのような懇親会や、ゴルフ・コンペ、深沢の歴史を探るハイキングなどの催しを予定しています。是非ご参加下さい。



開放感あふれるパーティー

おらが母校

手広中学校教頭 上原稔
(前深沢中学校教頭)

手広中学校に異動して、はや数ヶ月がたった。今から十七年前に深沢中学校と腰越中学校から別れてできた学校だから、学区の半分は元の深沢中学校の学区であり、深友会の会長をはじめ多くの会員の方々がおられる。手広中学に関係する各種の会でお会いするこ

旗の下、本校は夢を育てていきたいと思えます。

私たちは今後、二十一世紀に向けて新しい道探しと平行して、深沢中学校の古き時代の「コマ」もまた探し求め歩かなければ本校の発展はありえないと心しています。そのためには深友会のご活躍をお祈りいたします。

同期会報告

●第十三回生（昭和三十五年度卒業）

昨年十一月十六日、四年ぶりに大船の「つるや」にて小学校・中学校合同の同期会を行いました。出席者は二十数名。当日は源波・吉川両先生も元氣なお姿を見せ、思い出話に花を咲かせました。

二次会は同期の葉山隆夫君経営の「ステップ」で。カラオケで大いに盛り上がりしました。（島田）

●第十六回生（昭和三八年度卒業）

卒業以来三十五年、初めての同期会を七月十一日藤沢の「ルミネ・ウイング」にて開催しました。同期生一三五名のうち五十名が出席。さすがに顔も名前も思い出せない人が多く、自己紹介を聞いて初めてうなずく場面も。特に女性に変貌の激しい人が多かったようです。担任の三先生、山崎先生・源波先生・岩本（旧姓船見）先生も揃っ

深沢中学校の現在

最盛期（昭和57年度）の生徒数1351名に比べ、現在は657名と半数の規模になっています。

学級数も31から17に減り、余った教室は様々な特別教室として利用され、ゆとりのある授業が行われています。

部活動は運動部、文化部合わせて18の部があり、それぞれ活発に活動しています。7月には、香港で開かれた第一回アジア南太平洋卓球選手権大会（国際知的障害者スポーツ連盟主催）に、2年生の伊藤模紀さんが日本代表として出場、女子シングルで銀メダル、同ダブルスで銅メダルを獲得しました。（深友会で表彰）

とも多く、ほっとした気持と懐かしさがこみあげてくる。

小学校や中学校は地域に居住している子供たちが通ってくる地域の学校だから、卒業した後も多くはその学校がある地域に居住しているし、また他に住んでいても何かにつけて戻ってくる。多感で邪心のない時を過ごした地域に言い知れぬ思いがあるのは当然で、幼なじみにでも会おうものなら、時の流れを越えてたちまちのうちに少年時代に遡り、遊んだこと、先生のこと、部活のことなど、時間のたつのも忘れるほど話がはずむ。そして最後はほんのチョッピリとした秘めた話で終わる。何も昔は良かったなどと懐古じみたことは言わないが、経験を共有していることの「ありがたさ」や「大切さ」はかけがえのないものと言えよう。

てお顔を

を見せ、しきりに懐かしがっておられまし

た。（諸石）

●第二

十二回生（昭和四四年度卒業）



13回生の同期会

六月六日、藤沢で中学校・小学校合同の同期会が開催されました。これは毎年六月に行っている小学校の同期会を「今年は中学校時の先生もお呼びして」という話になり実現したもので、北村先生、太田（浩）先生、矢沢先生にご出席いただきました。

「幼なじみ」というものは幾つになっても変わらない温かさがあり、会うだけでその当時の自分に戻ってしまうものです。慌ただしい日々を追われる中で、年に一度ホッとできる時を持つことを幸せに思います。

これからもこの繋がりを大切にしていきたいです。（坪井孝子）

今までに手広中学校を卒業していった生徒は二四六四名で、深沢中学校の卒業生の数と比較すると五分の一にしかならない数ではあるけれど、卒業生にとって母校はまぎれもなくこの手広中学校であり、ふるさとはこの地域であるのだから、思い出をたくさん残せる学校であり、地域であることが望まれる。手広中の生徒が自らの手で造りあげていけば、きっと深沢中学校や深沢地域に劣らないものができる。

「おらが母校」「おらが町」と胸を張って言えるように、早くしたいものである。

